

日本気象学会 2011年度春季大会

会期：2011年5月18日（水）～21日（土）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）
（<http://nyc.niye.go.jp/index.html>）

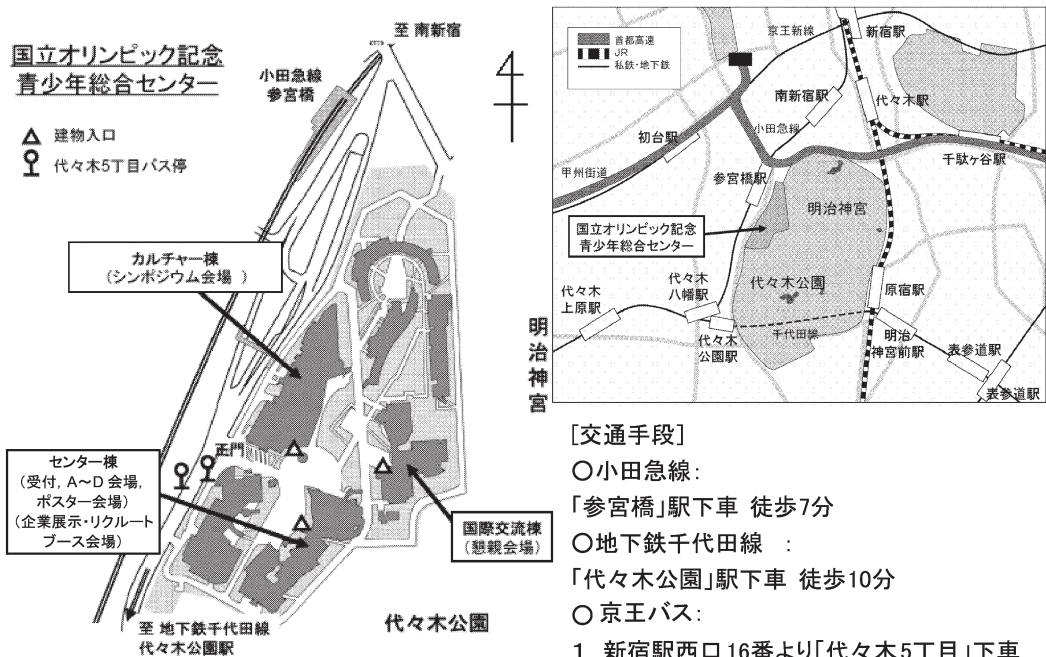
大会実行委員会担当機関：東京大学（大学院理学系研究科・先端科学技術研究センター）
国立極地研究所

大会委員長：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（405会議室：センター棟 4F）
TEL 090-5104-0587（大会期間中のみ有効）

※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板上に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

会場案内図



[交通手段]

- 小田急線：
「参宮橋」駅下車 徒歩7分
- 地下鉄千代田線：
「代々木公園」駅下車 徒歩10分
- 京王バス：
1. 新宿駅西口16番より「代々木5丁目」下車
2. 渋谷駅西口14番より「代々木5丁目」下車

大会行事予定

A会場	: セミナーホール417 (センター棟 4F)	総会・記念講演・シンポジウム	: 大ホール (カルチャー棟)
B会場	: 309会議室 (センター棟 3F)	受付	: 416会議室 (センター棟 4F)
C会場	: 310会議室 (センター棟 3F)	大会事務局	: 405会議室 (センター棟 4F)
D会場	: 311会議室 (センター棟 3F)	懇親会	: レセプションホール (国際交流棟)
ポスター会場	: 401・402・403会議室 (センター棟 4F)	休憩室	: 107・108会議室 (センター棟 1F)
(企業展示会場・リクルートブース併設)			

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 18日 (水)	10:00～ 11:30	降水システムI (8, A101～A108)	気候システムI (8, B101～B108)	境界層 (9, C101～C109)	惑星大気 (6, D101～D106)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P101～P138)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (11, A151～A161) 「気象庁が提供する気象データの利用と数値モデル開発の現状・課題」	専門分科会 (9, B151～B159) 「衛星搭載マイクロ波放射計と雲・降水システム研究」	専門分科会 (14, C151～C164) 「ウィンドプロファイラの現状と将来」	専門分科会 (14, D151～D164) 「2010年夏の異常気象」
5月 19日 (木)	09:30～ 11:30	降水システムII (11, A201～A211)	物質循環 (5, B201～B205) 気象教育 (3, B206～B208)	境界層II (5, C201～C205) 気候システムII (6, C206～C211)	大気力学 (10, D201～D210)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P201～P238)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 20日 (金)	09:30～ 11:30	降水システムIII (11, A301～A311)	中緯度大気 (10, B301～B310)	熱帯大気 (11, C301～C311)	エーロゾル (11, D301～D311)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P301～P338)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「変動する地球気候の鍵 - 南極・北極 -」			
5月 21日 (土)	09:15～ 11:30	降水システムIV (12, A401～A412)	気象予報 (10, B401～B410)	気候システムIII (11, C401～C411)	放射 (7, D401～D407)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P401～P438)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (13, A451～A463) 「柳井迪雄先生追悼特別セッション: 熱帯気象学の明日へ向けて」	公開気象講演会 「航空安全のための気象学」	専門分科会 (8, C451～C458) 「「ひまわり 8号, 9号」が拓く新しい気象学」	専門分科会 (12, D451～D462) 「AR5に向けた気候変化予測の現状」

発表件数: 387件 (専門分科会81, 口頭発表154, ポスター152)

※ 大会4日目(5月21日)の開始時間 (09:15)にご注意ください。

※ 各休憩室では20名まで有線LAN接続が可能です (接続ケーブルは実行委員会で用意)。売店 (宿泊D棟1F) でプリペイドカード (¥500) を予めご購入下さい。カード1枚で初期ログイン時より24時間後まで接続が可能です。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenkikaku2011s@metso.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は10分（講演8分・質疑2分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンピーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横180 cmとなっています。なお、ポスターボードの脚の高さは約50 cmです。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋲をお使い下さい。必要な画鋲は講演者自身でご用意ください。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は 09:00～17:30、大会第4日目は 09:00～16:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「変動する地球気候の鍵 —南極・北極—」

日時：大会第3日（5月20日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：近藤 豊（東京大学大学院理学系研究科）

趣旨：

地球規模の温暖化など気候・環境変動が問題となるなか、南極・北極はその要の場所となっている。巨大な氷床の存在、広大な海水域の広がり、大気や海洋の大循環を通じて、極域は地球規模変動の要因を生み出す場所であるとともに、地球規模の様々な変動からの影響が増幅されて現れ得る場所でもある。南極・北極は同じように振る舞うこともあるが、同じ極域でも異なった応答をすることもある。北極の変化が南極に伝わったり、そのまた逆も見られたり、両者の関係は極めて複雑かつ興味が尽きないものである。今般、南極昭和基地に大型大気レーダーが建設され観測が開始されたことを機会に、極域が地球規模変動の中でいかなる役割を果たし得るのか、単に気象学の分野にとどまらず、広く雪氷学・海洋学・古気候学・生命科学にまで議論を拡張したい。

基調講演：

- 1) 「新しい南極昭和基地大型大気レーダー（PANSY）から見えるもの」
佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）
- 2) 「近年の極域海洋変動と淡水循環の役割」
青木 茂（北海道大学低温科学研究所）
- 3) 「氷床を巡る生物探査と地球規模気候変動」
伊村 智（国立極地研究所）
- 4) 「氷床コアから見た南北気候のつながり」
川村 賢二（国立極地研究所）
- 5) 「気候変化における北極と南極の応答と役割：過去と将来」
阿部 彩子（東京大学大気海洋研究所）

総合討論

総 会

日時：大会第2日（5月19日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

議事次第

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 開会 | いて |
| 2. 議長選出 | (6) 役員の報酬・退職金に関する規定（案）につ |
| 3. 理事長挨拶 | いて |
| 4. 2011年度学会賞授与 | (7) 2011年度事業計画案 |
| 5. 2011年度藤原賞授与 | (8) 2011年度収支予算案 |
| 6. 2010年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞の報告 | (9) その他 |
| 7. 議事 | 8. 報告 |
| (1) 2010年度事業報告 | (1) 公益社団法人移行について |
| (2) 2010年度収支決算報告 | (2) その他 |
| (3) 2010年度監査報告 | 9. 議長解任 |
| (4) 理事の辞任に伴う後任の推薦について | 10. 閉会 |
| (5) 第36期日本気象学会名誉会員候補の推薦につ | |

専門分科会の概要紹介

2011年度春季大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

気象庁が提供する気象データの利用と数値モデル開発の現状・課題

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：気象学会と気象庁との間で、包括的な共同研究契約である、気象研究コンソーシアムが締結されて3年が経過しました。コンソーシアムでは、全球・メソ・アンサンブルといった数値予報データ、全球二酸化炭素分布データ、MTSATのラピッドスキャンデータなどを有効活用し、最先端の研究とその成果の社会還元を促進することを目的としています。この専門分科会では、

1. データ同化と数値モデルの改良、精度向上に関する研究
2. 数値予報の出力結果を利用する研究
3. 新しいデータ（二酸化炭素やMTSATラピッドスキャン）を用いた研究

などに関する講演を募集し、これらデータの研究への寄与と今後の課題について討議いたします。

コンピーナー：岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、余田成男（京都大学大学院理学研究科）、加藤輝之（気象庁数値予報課）

衛星搭載マイクロ波放射計と雲・降水システム研究

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：日本は窓領域のマイクロ波を観測する衛星搭載マイクロ波放射計のハードウェアでは世界のトップレベルにある。例えば、JAXAが開発した「改良型高性能マイクロ波放射計（AMSR-E）」は、NASAのAqua衛星（2002年5月打ち上げ）に搭載され、2010年10月現在も稼働

している。この後継の「高性能マイクロ波放射計2（AMSR2）」を搭載した、JAXAのGCOM-W衛星の打ち上げが2011年度に予定されている。ところが、この豊富で多様な衛星搭載マイクロ波放射計観測データを利用する研究者は、我が国では非常に少ないのが現状である。本分科会は、衛星搭載マイクロ波放射計のハードウェア、雲・降水アルゴリズム等の基本的なReviewと、放射計を中心とした衛星搭載マイクロ波センサによる最近の雲・降水システム等の研究の紹介部分との2部構成とし、この分野の大きな可能性について議論したい。

コンピーナー：青梨和正（気象研究所）、中村健治（名古屋大学地球水循環研究センター）、沖 理子（宇宙航空研究開発機構）、今岡啓治（宇宙航空研究開発機構）、高橋暢宏（情報通信研究機構）、高藪 縁（東京大学大気海洋研究所）、重 尚一（京都大学大学院理学研究科）

ウィンドプロファイラの現状と将来

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：2001年4月に運用を開始した気象庁の局地的気象監視システム（WINDAS：ウィンドプロファイラ（WPR）網）は、2011年に10周年を迎える。現業用ウィンドプロファイラとして、国内では気象庁業務（メソ数値予報モデル、実況監視など）や関係機関、研究目的でも利用されるほか、GTS（全球通信システム）回線を経由して国際的にも利用されている。運用開始10周年を記念した専門分科会を開催し、WINDASの成果報告と共に研究ベースで実施されている高度利用についても議論する。以下の内容で招待講演と一般講演で構成し、気象学会会員に対する情報提供を主体とした分科会とする予定である。

- ・WPR の基礎
- ・気象庁の WPR 網の特徴
- ・WPR の高度利用 (湿度情報や降水観測への活用等)
- ・次世代 WPR (多重化, イメージング等の最新技術関連)

コンビナー: 赤枝健治 (気象庁観測部), 小林隆久 (気象研究所), 橋口浩之 (京都大学生存圏研究所), 水野 量 (気象庁観測部)

2010 年夏の異常気象

日時: 大会第1日 (5月18日) 13:30~17:00

場所: D会場

趣旨: 2010 年夏の日本の平均気温は, 1898 年の気象庁統計開始以来, 最も高い記録となった. 特に8月の国内平均気温平年差は+2.25 度とこれまでの記録 (1994 年の +1.87 度) を大きく更新した. 世界に目を向けてみると, ロシアの熱波, パキスタンの大雨, 南米の寒波など各地で異常気象が頻発しており, 地球規模の大きな変動であったことが分かる. なぜこのように大きな振幅の変動が生じたのか, その要因を解明することは, サイエンスとして興味深いだけでなく, 広く国民の安心安全を実現するため, 気象学研究に従事する我々に課せられた責務であろう. この分科会では, 2010 年夏季の日本付近に異常高温をもたらした直接および間接的要因に関する研究成果を交換し, 議論の場を提供すると同時に, 今後の異常気象研究の出発点としたい.

コンビナー: 釜堀弘隆 (気象研究所), 楠 昌司 (気象研究所), 木本昌秀 (東京大学大気海洋研究所), 中村 尚 (東京大学先端科学技術研究センター), 向川 均 (京都大学防災研究所), 立花義裕 (三重大学大学院生物資源学研究所), 前田修平 (気象庁気候情報課)

柳井迪雄先生追悼特別セッション: 熱帯気象学の明日へ向け

日時: 大会第4日 (5月21日) 13:30~17:00

場所: A会場

趣旨: UCLA 名誉教授でいらした柳井迪雄先生は 2010 年 10 月 13 日に急逝されました. 柳井先生は, 日米の熱帯気象学をリードされ, 特に台風解析, 赤道波, 雲を含む熱バランス解析 (Q1, Q2), チベット気候, モンスーン, などに関して大変重要な概念と功績を残されました. また, 亡くなる直前までインターネットを通じて発行された続いた Tropical Meteorology Newsletter は, 世界の熱帯気象学者に最新の熱帯気象研究情報を届け, 日本の気象研究者を力強く応援してくれました. 柳井迪雄先生の偉大な功績を偲び, 熱帯気象学の最近の発展と将来展望に

ついて議論するための特別セッションを提案します.

コンビナー: 高萩 縁 (東京大学大気海洋研究所), 佐藤正樹 (東京大学大気海洋研究所), 大内和良 (海洋研究開発機構)

「ひまわり 8 号, 9 号」が拓く新しい気象学

日時: 大会第4日 (5月21日) 13:30~17:00

場所: C会場

趣旨: 2015 年度から運用を開始する予定の「ひまわり 8 号, 9 号」は, 他の静止気象衛星運用国に先駆けて, 最先端の観測を実現すべく計画された衛星である. 可視・赤外放射計のチャンネル数は現行の 5 から 16 へと飛躍的に増え, 観測頻度は全球で 10 分毎, 特に日本付近では 2.5 分毎 (ラピッド・スキャン観測) へと強化される. これらの機能強化により, 気象業務の実利用として台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視能力の向上やデータ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などが期待されるとともに, 気象学の発展の観点からも極軌道衛星等との複合観測による大気現象のメカニズム解明や気候変動の監視・解析などへの活用の期待が高まっている. 新衛星についての情報提供の後, 「ラピッド・スキャン観測」, 「新センサーの活用」, 「数値モデルへの同化」の 3 つのサブテーマおよび「総合討論」により, 新衛星が果たすべき役割について広く議論したい.

コンビナー: 大野智生 (気象庁気象衛星センター), 中島 孝 (東海大学情報技術センター), 岡本幸三 (気象研究所), 増田一彦 (気象研究所)

AR5 に向けた気候変化予測の現状

日時: 大会第4日 (5月21日) 13:30~17:00

場所: D会場

趣旨: 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第1作業部会では, 第5次評価報告書(AR5)の2013年公開を予定している. 各国研究機関においては, 第5期結合モデル相互比較実験(CMIP5)のプロトコルに従い, AR5 に向けて新しい温室効果気体排出シナリオを用いた気候変化予測実験を鋭意進めている. 本分科会では, モデル初期値化を伴う近未来気候変動予測, 地球システムモデルによる長期気候変化計算, 高解像度大気モデルを用いた極端現象予測といった新たなアプローチから得られる最新成果や科学的課題について, さまざまな角度から議論することを目的とする.

コンビナー: 木本昌秀 (東京大学大気海洋研究所), 鬼頭昭雄 (気象研究所), 石井正好 (気象研究所), 河宮未知生 (海洋研究開発機構), 渡部雅浩 (東京大学大気海洋研究所)

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です. 詳しくは大会ホームページ (<http://msj.visitors.jp/>) をご覧ください. 参加は無料です.

日時: 2011 年 5 月 21 日 (土) (大会第 4 日) 13:30~17:00

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
309 会議室 (センター棟 3F) (大会 B 会場)

テーマ: 「航空安全のための気象学」

主催: 社団法人 日本気象学会
教育と普及委員会・航空気象研究連絡会

後援：一般社団法人 日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会 2011 年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や気象情報の利用についてわかりやすく解説することを目的とした公開気象講演会を開催しています。今回は教育と普及委員会・航空気象研究連絡会との共催で「航空安全のための気象学」をテーマに取り上げます。航空機の安全運航のためには気象情報が必要になります。また、飛行場や航空路の大気現象を対象とした航空気象は、一般を対象とした気象観測や天気予報とは異なる特殊性や困難性を持っています。講演会では、航空気象の研究や、情報の発信、管制や運航の現場での利用等、さまざまな立場から航空気象に携わられている方々から、航空気象の歴史・概要や、最新の研究・技術を紹介していただくとともに、情報が実際にどのように状況判断に用いられるか、今後どのような情報が出るのか、また必要なかを議論いただきたいと思います。ふるってのご参加をお願いします。

テーマおよび講演者：

1. 「進化した飛行機にはメソスケールの智識が必要である」
日本航空機操縦士協会顧問 中山 章氏
2. 「航空機の安全運航を支援する気象庁の航空気象情報」
気象庁総務部航空気象管理官 田畑 明氏
3. 「TBD」
国土交通省航空局担当官（予定）
4. 「気象情報の利用と安全運航 ～運航管理の視点から～」
日本航空株式会社気象グループ 浦 健一氏
5. 「気象情報の利用と安全運航 ～パイロットの視点から～」
日本航空機操縦士協会航空気象委員長 山本秀生氏

問い合わせ先：氏家将志（気象庁）

TEL: 03-3212-8341（内線 3309）

E-mail: ujite@met.kishou.go.jp

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第35回メソ気象研究会

日時：2011年5月17日（火）（大会前日）13:15～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「メソ気象研究の将来展望・構想」

コンピーナー：新野 宏（東大気海洋研），加藤輝之（気象庁数値予報課）

内容：1991年から始まったメソ気象研究会は今年で20周年を迎える。この間、様々な新しい観測機器が開発され、現実観測にもドップラーレーダーやウィンドプロファイラ網、雷監視システムなどが導入されてきた。また、電子計算機の発展と共に、従来は夢でしかなかった竜巻までもが再現できる高解像度の数値シミュレーションが可能となると共に、GPS可降水量などの新しい観測データを用いた同化手法・メソアンサンブル予報なども開発されてきた。しかし、1998年から2003年にかけて戦略的基礎研究（CREST）による「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」の研究が行われて以来、メソ気象に関する大規模な観測実験はほとんど行われていない。今回の研究会では20周年を機に、メソ気象研究の将来に関する展望と夢を現象・手法・研究体制や気象庁との関わり方など様々な観点から話題提供いただき、今後のメソ気象研究を推進する方向性について議論していただくことにしたい。

プログラム：

- 13:15-13:45 新野 宏（東大気海洋研究所）「趣旨説明と基調講演」
13:45-14:15 吉崎正憲（海洋研究開発機構）「戦略基礎メソ対流系から得たものおよびその発展」
14:15-14:40 石原正仁（気象研究所気象衛星・観測システム研究部）「観測システムの将来像 - 観測屋のなすべき事 -」

休憩

14:55-15:20 藤吉康志（北海道大学低温研究所）観測システムの将来像 - 質と量 -」

15:20-15:45 斉藤和雄（気象研究所予報研究部）「メソスケールのデータ同化とアンサンブル研究」

15:45-16:10 坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター）「観測と数値モデルもっと基礎研究と発見を」

16:10-16:35 加藤輝之（気象庁数値予報課）「気象庁や他分野との関わり方」

休憩

16:50-17:30 総合討論（パネルディスカッション）

世話人：坪木和久（名大地球水循環），加藤輝之（気象庁数値予報課），小倉義光（東大気海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象庁数値予報課）

E-mail：teruyuki_kato@met.kishou.go.jp

注意事項：自家用車での来庁はご遠慮下さい。正面玄関（KKR東京側）をご利用ください。研究会の受付で名札を受け取り、着用して下さい。

第10回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2011年5月18日（水）（大会第1日）17:30～19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟3F 309会議室（大会B会場）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。
* 陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換
* 陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明

- *直接観測, 間接観測, およびモデリングの融合
- *空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決
- *正確な現状の認識と, 実質的に意味のある手法の開発
- *それらのための研究協力関係の構築

今回は, 乾燥圏研究に焦点をあて, 3名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者および講演題目(敬称略) :

篠田雅人(鳥取大学)

「干ばつメモリの動態: フィールド実験の意義」

中野智子(中央大学)

「半乾燥草原生態系におけるCO₂収支の推定」

飯島慈裕(海洋研究開発機構)

「寒冷圏陸域の地温・土壌水分メモリ」

世話人: 馬淵和雄(気象研), 大谷義一(森林総研), 奈佐原顕郎(筑波大), 伊藤昭彦(国環研), 佐藤 永(名大), 大石龍太(東大), 立入 郁(海洋研究開発機構)

代表連絡先: 馬淵和雄(気象研)

TEL: 029-853-8722, FAX: 029-853-8728

E-mail: kmabuchi@mri-jma.go.jp

オゾン研究連絡会

日時: 2011年5月18日(水) (大会第1日) 17:30~2時間程度

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 310会議室(大会C会場)

内容: 今回は, PM_{2.5}をはじめとした粒子状物質(エアロゾル)に関して, 気象学会では最近あまり取り上げられていない観点から, 2件のご講演を予定しています。

(1)「東アジア域における粒子状物質の現状」高見明憲(国立環境研究所)

国環研が行ってきた九州沖縄地区での粒子状物質の観測結果や, EANETなど外部の観測データなどをもとに東アジア域における微小粒子状物質の濃度分布, 化学組成, 越境大気汚染の現状について解説する。さらに微小粒子状物質の健康影響についても簡単に紹介する。

(2)「大気汚染防止の法制度に関して」手島裕明(環境省水・大気環境局大気環境課)

日本における大気汚染防止のための法制度に関して, その歴史や昨年度に環境基準の設定が行われた粒子状物質(PM_{2.5})の場合などを例に, あらましを解説する。

世話人: 笠井康子(NICT), 川上修司(JAXA), 河本 望(RESTEC), 永島達也(環境研), 高島久洋(JAMSTEC), 村田 功(東北大院環境科学)

連絡先: 村田 功(東北大院環境科学)

TEL: 022-795-5776

FAX: 022-795-5775

気象教育懇談会

日時: 2011年5月20日(金) (大会第3日) 17:30~2時間程度

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 309会議室(大会B会場)

テーマ: 「身の回りの危機管理と気象教育」

内容: 私たちは局地的豪雨などの極端気象現象に出会ったとき, 「危ない」「危なそうだ」「大丈夫だ」といった判断を何を基準にして下しているのか, あるいは判断を下せないでいるのか, もし, 判断を下せないのであればその理由は何か,

一般的に熱中症, 豪雨, 落雷, 豪雪, 突風(竜巻)など

気象が原因となる事柄についての理解が十分とはいえない。昨年から市町村単位の警報・注意報が発表されるようになったが, 極端気象の増加により気象情報は追いついていない。こうしたなかで, 私たちはいかかにして自分自身を守っていくべきか, いろいろな情報と現象を合わせて読み解く能力をどのようにして身につけたらよいか,

このようなテーマをふまえて, 気象関係者に求められていることや出来ること何であろうか, 防災科学と気象の側面も含めて学校教育と社会教育の場面から考えてみたい。詳細が決まりましたら, 教養と普及委員会のHP (<http://www.wsoc.nii.ac.jp/msj/kyoikuhukyu/>)に掲載致します。

世話人: 石原幸司(気象研), 宮下 敦(成蹊中学高校), 嶋山正恒(聖光学院)

問い合わせ先: 教養と普及委員会

嶋山正恒(聖光学院中学高校)

TEL: 045-621-2051

E-mail: hatakeya@hotmail.com

極域・寒冷域研究連絡会

日時: 2011年5月20日(金) (大会第3日) 17:30~2時間程度

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 310会議室(大会C会場)

趣旨: 極域は地球温暖化の影響が顕著に現れる地域とされ, 温暖化に対して脆弱な地域とされています。これは大気と地表面間の熱輸送量に大きく影響する海氷や積雪の有無, あるいはその形成期間が地球温暖化によって影響を受けやすいことが原因の1つとして挙げられます。こうした極域の現象の気候モデル内における再現性は将来予測の観点からも, また観測データの評価の観点からも重要であると考えられます。

極域の気候変化は, 気候モデルの中でどのように再現され, 予測されているのか? その再現性の評価や, 将来予測に対する信憑性の評価をどのように行うべきか? こうした関心事を念頭に, IPCC AR4/AR5に貢献する日本の温暖化予測モデルの改良点とそのパフォーマンスについて専門家に解説していただきます。

今回は日本を代表する2つの気候モデルの専門家をお迎えして, AR4以後の改良点と現時点での計算の進捗状況について極域気候の再現性の視点から講演していただき, さらにこれらのモデル出力を研究に利用するにあたり, データ取得方法やAR5に貢献するためのスケジュール等について情報提供をします。当日, 飛び入りでの話題提供も歓迎いたしますので, たくさんの方のご参加をお待ちしています。

話題: 「気候モデルの極域の再現性」

「MRIモデルの現状と極域再現性」

保坂 征宏(気象研究所)

「MIROCの現状と極域再現性」

小室 芳樹(JAMSTEC)

「モデルデータの取得と利用方法」

堀 正岳(JAMSTEC)

問い合わせ先: 堀 正岳(JAMSTEC)

TEL: 046-867-9489, FAX: 046-867-9455

E-mail: mehori@jamstec.go.jp

URL: http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介致します。

・セルリアンタワーポピンズキッズルーム

〒150-0031 東京都 渋谷区桜ヶ丘 26-1

セルリアンタワー東急ホテル 3F

TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377

http://www.poppins.co.jp/room/index.html#shibuya_ku

アクセス：渋谷駅から徒歩約5分

利用可能時間・利用料金：

10:00～19:00 (20:00*まで延長可)：2,625 円/1 時間

8:00～10:00*, 20:00～23:00*：3,150 円/1 時間

*利用日の2日前までに連絡が必要

(2名以上の兄弟・姉妹の場合割引あり)

持ち物：食事 (ルームサービス可)、おやつ、おむつ、着替え、保護者の身分証明書

大会実行委員会では、利用料金の一部を補助する予定です。上記の施設、またはそれ以外の保育施設の利用等、保育支援をご希望の方は、できるだけ早く下記担当者までご連絡ください。なお、それ以外のお問い合わせにもできる限り対応致します。

連絡先：山内 恭, 平沢尚彦 (国立極地研究所)

E-mail: yamanou@nipr.ac.jp, hira.n@nipr.ac.jp

TEL: 042-512-0604, 042-512-0685

リクルートブースの試験的導入について

日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会国際大気科学協会 (IAMAS) 小委員会は、若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、今大会から大会会場にてリクルートブースを試験的に導入することとしました。これは、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者が、広く民間企業にて適職に出会うのをサポートするための試みです。ブースでは、企業の就職担当者と就職を希望する参加者との間で直接情報交換をして頂きます。参加予約等の手続は不要です。

ブースはポスター会場内に併設し、原則として毎日コアタイム (ポスター発表時間～昼休み) にのみ、企業側担当者が対応します。各企業のブースは原則として2日間のみ開設されます (以下のリストで、大会1・2日目開設は*、

3・4日目開設は#)。但し、展示を行なう企業のうち予め届出を頂いた企業については、展示ブース (ポスター会場に併設) にリクルートブースを併設して頂きます。この場合、4日間にわたるブースの開設も可能であり、コアタイム以外の対応も可能なケースもあります。

なお、リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです (2011年3月31日現在; 50音順)。

株式会社グローバル オーシャン ディベロップメント*

株式会社セネコム (展示ブースに併設)*#

日本カノマックス株式会社 (展示ブースに併設)*#

一般財団法人日本気象協会 (展示ブースに併設)*

株式会社三菱総合研究所*

日本気象学会2011年度春季大会 後援・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催に当たり、以下の企業・団体からご支援を頂きました (2011年3月31日現在; 50音順)。厚く御礼申し上げます。

英弘精機株式会社

学術図書印刷株式会社

三報社印刷株式会社

株式会社セネコム

全日本空輸株式会社

ダイヤモンド エア サービス株式会社

東京ダイレック株式会社

財団法人日本宇宙フォーラム

株式会社日本エレクトリック・インスルメント

日本カノマックス株式会社

一般財団法人日本気象協会

日本電気株式会社

株式会社ニューテック

ヴァイサラ株式会社

三菱電機特機システム株式会社

横河電子機器株式会社

リアルコンピューティング株式会社

秋季大会の予告

2011年度秋季大会は、2011年11月16日 (水)～18日 (金) に名古屋大学で開催される予定です。

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表**A 会場****降水システムI**

座長 : 竹見 哲也 (京大防災研)

- A101 杉本 志織 (筑波大院生命環境) チベット高原東部及び四川盆地で発生するメソ対流系が上層気圧や周辺降水に及ぼす影響
- A102 竹見 哲也 (京大防災研) 夏期局地降水の環境条件の将来変化
- A103 小司 禎教 (気象研) GPS解析の改良
- A104 田尻 拓也 (気象研) MRI雲生成チェンバーによる人工降雨基礎実験吸湿性粒子シーディングの評価
- A105 藤田 浩史 (気象協会) 人工降雪実験観測データを用いたシーディング効果の定量的判定の試み
- A106 橋本 明弘 (気象研) 航空機による雲シーディング実験の高解像度数値シミュレーション (その2)
- A107 山下 晃 (元) 阪教大) 雪結晶の成長機構 - 3種類の人工雪実験から -
- A108 高橋 庸哉 (北教大) 鉛直過冷却雲風洞実験による樹枝状雪結晶の成長温度領域の決定

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表

B 会場

気候システムI

座長 : 楠 昌司 (気象研)

- B101 二宮 洸三 (JAMSTEC) メイユ・梅雨前線降水帯の年々変動に関するCMIP3-20世紀実験モデル相互比較
- B102 道広 有理 (京大防災研) GCMおよび排出シナリオの違いによるCMIP3マルチ気候モデルの予測不確実性について
- B103 久保田 尚之 (JAMSTEC) 20世紀を通じた西部北太平洋域での台風とモンスーンに関する変動
- B104 楠 昌司 (気象研) 地球温暖化による梅雨の変化
- B105 遠藤 洋和 (気象研) 過去100年の日降水量データによる梅雨の季節進行の長期変化 第2報
- B106 末吉 雅和 (気象研) CMIP3マルチモデルデータによるアリューシャン低気圧の再現性と将来変化の関係
- B107 谷貝 勇 (無所属) 地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について (その3) -シベリア温暖化の影響と近未来予測-
- B108 吉森 正和 (東大大気海洋研) CMIP3気候モデル出力を用いたグリーンランド氷床表面質量収支の将来予測幅について

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表

C 会場

境界層I

座長 : 河野 仁(兵庫県立大)

- C101 高橋 一之 (都環科研/首都大都市環境) 夏季における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係 (第5報) -東京周辺の気圧分布による夜間の風系の解析-
- C102 藤原 忠誠 (北大院環境科学) ドップラーライダーで観測した海上の組織的気流構造
- C103 菅原 広史 (防衛大地球海洋) シンチロメータによるフラックス計測の検討
- C104 近藤 裕昭 (産総研) 地上ラドン濃度上昇時の平均的特徴について

座長 : 高橋 一之(都環研)

- C105 久米村 秀明 (東工大院理工) 高速サーモカメラによるビル壁面に沿った熱上昇流の観測
- C106 仲吉 信人 (東工大院理工) 3球の小型グローブ温度計を用いた風速, 短波・長波放射量の推定方法
- C107 河野 仁 (兵庫県立大学) 不安定時の都市大気乱流の特徴-モニン・オブコフ相似則の適用可能性
- C108 中村 美紀 (京大院人間環境) 大気は地面から冷えない
- C109 増田 仙一 (京大院人間環境) バルク係数CHと分子拡散の関係

大会第1日 [5月18日(水)] 10:00~11:30 一般口頭発表

D 会場

惑星大気

座長 : 小郷原 一智 (JAXA/ISAS)

- D101 乙部 直人 (福大理) MELOS 火星着陸機の気象観測測器の検討
- D102 小郷原 一智 (JAXA/ISAS) 火星ダストストーム拡大地域の特定とその考察
- D103 高橋 芳幸 (神戸大院理) 高解像度火星大気大循環モデルで表現される小規模擾乱によるダスト巻き上げ過程への影響
- D104 山下 達也 (北大院理) 主成分凝結を伴う 2 次元大気対流の準平衡状態
- D105 加藤 亮平 (九大院理) 木星大気大規模渦の数値実験 : 大規模渦の生成メカニズム
- D106 納多 哲史 (神戸大理) 同期回転惑星における暴走限界の自転角速度・日射分布依存性

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 専門分科会

A 会場

「気象庁が提供する気象データの利用と数値モデル開発の現状・課題」

趣旨説明

座長：加藤 輝之（気象庁数値予報課）

- A151 佐藤 芳昭（気象庁数値予報） 気象庁の数値予報におけるデータ同化開発の現状と課題
- A152 永戸 久喜（気象庁数値予報） 気象庁のメソ数値予報における開発の現状と課題
- A153 経田 正幸（気象庁数値予報） 気象庁全球モデルにおける開発の現状と課題
- A154 宮岡 健吾（気象庁気候情報） 気象庁気候情報課からのデータ提供と1か月予報におけるMJO予報特性
- A155 眞木 貴史（気象研） 気象庁二酸化炭素分布情報を用いたGOSATのバイアス調査休憩

座長：岩崎 俊樹（東北大学大学院理学研究科）

- A156 向川 均（京大防災研） 気象庁1ヶ月アンサンブル予報結果を用いた成層圏-対流圏力学結合の予測可能性に関する研究
- A157 田中 博（筑波大CCS） 気象庁GPVデータを用いた筑波大CCSの取り組みについて
- A158 中村 健治（名大水循環センター） 静止気象衛星のrapid scanデータによる降水システムの研究への期待
- A159 伊藤 耕介（京大理） 非静力学メソ4次元変分法データ同化システム(JNoVA)における強風状況下の海面交換係数の最適化
- A160 瀬古 弘（気象研） LETKFをネストさせた雲解像度同化システムの開発
- A161 田口 正和（愛知教育大） 2001/02—2009/10年における気象庁1ヶ月アンサンブル予報データを用いた冬季北半球成層圏の予測可能性

総合討論

座長：余田 成男（京都大学大学院理学研究科）

※質疑を含めた講演時間：招待講演（アンダーライン）は16分，その他は13分。

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 専門分科会

B 会場

「衛星搭載マイクロ波放射計と雲・降水システム研究」

趣旨説明 (5分)

第1部 基本的なReview (招待講演)

座長 : 青梨 和正 (気象研)

- B151 重 尚一 (京大院理) 衛星搭載マイクロ波放射計観測データの利用入門
- B152 今岡 啓治 (JAXA/EORC) 衛星搭載型マイクロ波放射計の観測装置概要について
- B153 高橋 暢宏 (NICT) 衛星搭載マイクロ放射計 (イメージャ) 降水アルゴリズムの基本

第2部 衛星搭載マイクロ波センサによる最近の雲・降水システム等の研究の紹介 (一般講演)

座長 : 高橋 暢宏 (NICT)

- B154 青梨 和正 (気象研) 新しい陸上のマイクロ波放射計降水リトリーバルアルゴリズムの開発 (その2)
- B155 谷口 藍奈 (京大院理) 山岳域におけるマイクロ波放射計を用いた降雨推定の改良に向けて
- B156 久保田 拓志 (JAXA/EORC) 海岸域のマイクロ波放射計降水アルゴリズムの開発
- B157 村山 裕紀 (東大気候システム) TRMM降雨レーダーデータを用いたextreme rainの地域特性の解析 Part1
- B158 河本 望 (RESTEC) アメダス雨量計を用いたTRMM/PR年間降雨量の検証
- B159 鷹野 敏明 (千葉大工) 雲レーダによる雲・水蒸気の計測と衛星検証

全体討論 (30分)

※質疑を含めた講演時間 : 招待講演は25分, その他は15分.

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 専門分科会

C 会場

「ウィンドプロファイラの現状と将来」

WPRの基礎

座長：赤枝 健治（気象庁観測）

C151 深尾 昌一郎（福井工大） ウィンドプロファイラの展開

気象庁のWPR網の特徴

座長：別所 康太郎（気象庁観測）

C152 白野 和浩（気象庁観測） WINDASの展開と運用状況

C153 酒匂 啓司（気象庁数値予報） ウィンドプロファイラのデータ同化における利用と課題

WPRの高度利用について

座長：小林 隆久（気象研）

C154 瀬古 弘（気象研） プロファイラで観測された屈折率の同化実験

C155 佐藤 晋介（NICT） 400MHz帯WPR/RASSによる沖縄亜熱帯域の風速および気温プロファイルの定常観測の現状と課題

C156 川畑 拓矢（気象研） 沖縄本島の降水予報におけるRASS観測データのインパクト

C157 梶原 佑介（気象庁観測システム） ウィンドプロファイラで得られたスペクトル幅による乱気流監視の可能性

C158 松田 真（京大生存研） 大気境界層におけるウィンドプロファイラレーダーの風速推定誤差に関する研究

C159 坂崎 貴俊（北大環境） WINDASで明らかになった日本上空下部対流圏の風の日変動

次世代WPRに向けて

座長：橋口 浩之（京都大学生存圏研究所）

C160 山本 衛（京大生存研） 大気レーダー1/2/3次元イメージング

C161 西村 耕司（情報・システム研究機構） 空間・周波数干渉計法とアレイアンテナ技術による対流圏イメージング

C162 津田 敏隆（京大生存研） Development of RASS with a Boundary Layer Radar at NARL, India

C163 関澤 信也（NICT） 1.3GHz帯ウィンドプロファイラの多重化と稠密配置の検討

C164 橋口 浩之（京大生存研） ソフトウェア無線技術を用いたウィンドプロファイラ用デジタル受信機の開発

総合討論

※講演時間：招待講演（アンダーライン）は15分（講演12分＋質疑応答3分）、その他は12分（講演10分＋質疑応答2分）。

大会第1日 [5月18日(水)] 13:30~17:00 専門分科会

D 会場

「2010年夏の異常気象」

趣旨説明

座長：楠 昌司（気象研）

- D151 田中 昌太郎（気象庁気候情報） 2010年夏の記録的な高温について
- D152 前田 修平（気象庁気候情報） 気象庁アンサンブル季節予報システムによる2010年夏の予測
- D153 松枝 未遠（JAMSTEC） 2010年夏季にモスクワ周辺に熱波をもたらしたブロッキングの予測可能性
- D154 森 正人（東大大気海洋研） 大気大循環モデルを用いた2010年夏季の天候再現実験
- D155 遠藤 洋和（気象研） MRI-AGCMによる2010年夏の再現実験
- D156 小林 ちあき（気象研） 2010年夏季における対流圏中緯度域の昇温について
- D157 小坂 優（ハワイ大IPRC） ENSO発達期における夏期北西太平洋モンスーン活動偏差

座長：前田 修平（気象庁気候情報）

- D158 宮坂 貴文（東大院理） 2010年夏季ユーラシア域の異常気象の連関と偏西風の異常蛇行
- D159 立花 義裕（三重大生物資源/JAMSTEC） 2010年夏の北極振動指数（SV NAM）異常とそれに関連した半球規模の猛暑
- D160 大富 裕里子（三重大生物資源） 2010年北極振動の冬から夏への極性反転と猛暑の連関
- D161 小寺 邦彦（名大STE） 2010年7月中旬の循環場の急変と夏の異常気象
- D162 釜堀 弘隆（気象研） 2010年不活発な台風活動
- D163 増田 善信（元）気象研） 2010年夏の異常気象と巨大ブロッキングの卓越
- D164 谷田貝 亜紀代（地球研） インド北部ラダーク地域の2010年8月の豪雨 —現地観測データと循環場—

※各講演の持ち時間は13分（講演10分＋質疑応答3分）です。

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システムII

座長 : 津口 裕茂 (気象研)

- A201 二宮 洸三 (JAMSTEC) 1968年8月17日飛騨川豪雨の降水システム
- A202 山田 芳則 (気象研) 東京・雑司ヶ谷に大雨をもたらした2008年8月5日の積乱雲の内部構造
- A203 齊藤 和雄 (気象研) 2008年8月5日首都圏局地的大雨の雲解像アンサンブル実験 (その2 JNoVAによるGPS可降水量同化解析の利用)
- A204 宮城 和明 (東大大気海洋研) 2009年8月9日に中国山地東部の豪雨をもたらした降水系について
- A205 牛山 朋來 (土研ICHARM) 2010年7月5日に発生した板橋豪雨の数値シミュレーション
- A206 津口 裕茂 (気象研) 2010年10月20日の“奄美豪雨”の発生要因について
- A207 荒木 健太郎 (銚子地方气象台) 2009年8月9日に千葉市に局地的大雨をもたらした降水系の事例解析
- A208 木下 仁 (福岡管区气象台) 2010年10月20日奄美地方に大雨をもたらした環境場の過去事例との比較
- A209 川畑 拓矢 (気象研) 那覇ガープ川豪雨に関する同化・予報実験
- A210 岩崎 博之 (群馬大教育) 数値モデルを用いた水蒸気量増加が積乱雲活動の日変化に与える影響に関する研究
- A211 加藤 輝之 (気象庁数値予報) 大雨予測における診断的手法の確立に向けて その1: 下層水蒸気場の特徴の把握

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

物質循環

座長 : 梅澤 拓 (東北大院理)

- B201 長澤 親生 (首都大システムデザイン) CO₂濃度鉛直分布観測用次世代ライダーの開発 (3)
- B202 井上 誠 (環境研) GOSAT TANSO-FTS SWIRから導出されたXCO₂とXCH₄の検証 -地上高分解能FTSと航空機観測データを用いて-
- B203 梅澤 拓 (東北大院理) 航空機を用いた日本上空の対流圏メタンの観測
- B204 永島 達也 (環境研) 東アジアの地表オゾンに対する発生源別寄与の長期変化
- B205 スンモヌ ルクマン・アヤニー (北大低温研) Water Vapor Isotope ratios in Surface Air in Sapporo, Japan

気象教育

座長 : 梅澤 拓 (東北大院理)

- B206 坪田 幸政 (桜美林大) 気候変動教育のカリキュラム開発~気候リテラシー~
- B207 加藤 内藏進 (岡大教育理科) 日本の春の卓越気象系の特徴と季節感に関する中学校での授業開発 (唱歌『朧月夜』を接点として)
- B208 加藤 内藏進 (岡大教育理科) 地球温暖化と昆虫に関する教育学部生への講義 (東アジア季節サイクルと昆虫の生活環の中で)

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

境界層II

座長 : 中山 浩成(原子力研)

- C201 伊藤 純至 (東大大気海洋研) LESによる海風前線の再現と水平対流のスケーリング
- C202 中西 幹郎 (防衛大地球海洋) 台風境界層に発生する不安定のラージ・エディ・シミュレーション
- C203 中山 浩成 (原子力機構) 乱流流入生成手法を用いたLESモデルと気象モデルによる都市域強風変動の融合解析
- C204 高根 雄也 (筑波大院生命環境) 日本で最も暑い京阪地域における夏季高温の実態調査と形成要因の解明
- C205 日下 博幸 (筑波大学計算科学) 降水に対する都市効果の検証 - アンサンブル気候実験 -

気候システムII

座長 : 松村 伸治 (北大地環研)

- C206 佐藤 友徳 (北大院地球環境) 北海道における土地被覆変化と地域気候応答の理想化実験
- C207 松村 伸治 (北大院地球環境) オホーツク海高気圧における大気-陸面結合の役割
- C208 村田 昭彦 (気象研) 高解像度日本域気候モデルによる夏季の高温の将来予測
- C209 栗原 和夫 (気象研) AGCMにネストしたNHRCMの現在気候の再現実験 (その1) -地上気温・降水-
- C210 栗原 和夫 (気象研) AGCMにネストしたNHRCMの現在気候の再現実験 (その2) -積雪-
- C211 馬淵 和雄 (気象研) 近年発生したエルニーニョ前後の大気中CO₂濃度変動と陸域過程との関係に関する数値実験解析

大会第2日 [5月19日(木)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

大気力学

座長 : 渡辺 真吾 (JAMSTEC)

- D201 末吉 雅和 (気象研) 一般化された2次元流体系の波動活動度保存則
- D202 渡辺 俊一 (東大理) 回転する流体中に見られた振動現象と履歴現象
- D203 木下 武也 (東大院理) 慣性重力波とロスビー波に適用可能なストークスドリフトの定式化
- D204 渡辺 真吾 (JAMSTEC) 成層圏循環の変動と大気の平均年代の関連について
- D205 坂崎 貴俊 (北大環境) TIMED/SABERデータおよび全球再解析データを用いた対流圏-下部中間圏の大気潮汐の研究
- D206 岩崎 俊樹 (東北大) 傾圧不安定波動の発達率の一般化について
- D207 檜尾 守昭 (気象大) 条件付き不安定場における純粋な自由対流と強制対流の演繹的推測
- D208 村上 茂教 (気象研) エネルギーサイクル再考
- D209 黒木 祐樹 (防衛大地球海洋) シアと成層の変化に伴うKelvin-Helmholtz波による運動量輸送
- D210 日比野 研志 (京大院理) 大気エクマン層内の不安定摂動に対する逆転層の与える影響

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システムIII

座長 : 新井 健一郎 (JR東日本防災研)

- A301 荒木 健太郎 (銚子地方気象台) 2010年1月13日に新潟県に上陸したメソβスケールの渦状擾乱に伴う局地降雪について
- A302 濱田 一平 (高知大院理) 土佐湾で発生した渦のレーダー解析
- A303 楠 研一 (気象研) 庄内平野で観測された突風と気象じょう乱渦および渦内部の地上風について
- A304 猪上 華子 (気象研) 冬季突風をもたらす気象擾乱の環境場把握に向けた高頻度ゾンデ観測概要
- A305 楠 研一 (気象研) 渦列をもつ降水帯周辺の高頻度高層ゾンデ観測ー2010年12月7日の事例ー
- A306 新井 健一郎 (JR東日本防災研) 庄内平野において小型ドップラーレーダーデータから自動検出された下層の渦の特徴
- A307 西橋 政秀 (気象研) 庄内平野で観測された冬季雷の3次元標定
- A308 瀧瀬 丈晴 (名大地球水循環) 名大Xバンド偏波レーダーを用いて観測された雷雲の内部構造の時間変化
- A309 道本 光一郎 (防衛大) 小松空港周辺の冬季航空機被雷 (2010/11シーズンの観測結果等) について
- A310 若山 直彦 (阪大院工) 気象用Ku帯広帯域レーダを用いた庄内空港, 着陸飛行経路上の正対風, 横風観測
- A311 川島 正行 (北大低温研) 寒冷前線上の水平シア不安定に対する局所的鉛直シアの影響

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

中緯度大気

座長 : 本田 明治 (新潟大学)

- B301 西川 はつみ (三重大生物資源) ラジオゾンデ連続放球による海洋上の革新的な気象観測
- B302 古澤 文江 (名大地球水循環) 衛星データを用いた黒潮流域の降水についての研究
- B303 山本 勝 (九大応力研) 東アジア縁辺海が日本海低気圧に与える影響
- B304 田口 文明 (地球シミュレータ) 北太平洋亜寒帯前線の十年規模変動に対する大気応答の季節性
- B305 佐藤 大卓 (東大院理) 冬季アジアジェット沿いに卓越する波列偏差パターンの解析
- B306 山崎 哲 (九大院理) 渦と渦の相互作用によるブロッキング持続メカニズム (その2)
- B307 田中 翔 (新潟大理) 秋季北極海における寒気吹き出し時の乱流熱フラックスの見積もり
- B308 猪上 淳 (JAMSTEC/RIGC) 寒波をもたらすバレンツ海の高・低気圧活動に関する観測的研究
- B309 堀 正岳 (JAMSTEC/RIGC) 冬季東アジアに襲来する寒波とバレンツ・カラ海上の大気変動および大西洋上のブロッキングとの関連性
- B310 力石 國男 (弘前大院) 2010/11年豪雪をもたらした大気循環は特異であったか?

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯大気

座長 : 柳瀬 亘 (東大大気海洋研)

- C301 川島 正行 (北大低温研) HARIMAU2006期間中に西スマトラで観測された対流システムに伴う突風現象
- C302 吉崎 正憲 (IORGC) 異なる東進速度を持つ赤道対称降水系 (スーパークラスとMJO) の発現について
- C303 柳瀬 亘 (東大大気海洋研) 夏季モンスーン期とその前後にベンガル湾に発生する熱帯低気圧の環境場
- C304 横田 祥 (東大大気海洋研) ITCZ Breakdownによって発生した台風の再現実験
- C305 宮本 佳明 (京大防災研) 熱帯低気圧の自己励起的発達過程への遷移メカニズム
- C306 吉田 龍二 (京大防災研) 数値モデルを用いた台風 Francisco (T0118) の初期渦形成過程に関する研究
- C307 山田 広幸 (JAMSTEC) 台風Fengshen(2008)の発生に関わるメソスケール過程
- C308 那須野 智江 (JAMSTEC) 全球非静力学モデルを用いた台風0806号 (Fengshen) 再現実験第3報
- C309 武田 一孝 (東大大気海洋研) 台風の水平スケールに影響する要因に関する数値的研究
- C310 相澤 拓郎 (筑波大院生命環境) NICAM で再現された2008 年台風13号に見られたアイウォール再配置プロセス
- C311 北畠 尚子 (気象研) 温帯低気圧化した台風の構造の特徴

大会第3日 [5月20日(金)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

エアロゾル

座長 : 五藤 大輔 (東大大気海洋研)

- D301 鶴田 治雄 (東大大気海洋研) 春季の福江島における大気エアロゾルの形態分析(第1報) ----炭素系粒子と土壌系粒子およびそれらの混合状態----
- D302 鶴田 治雄 (東大大気海洋研) 春季の福江島における大気エアロゾルの形態分析(第2報) ----海塩粒子と硫酸塩粒子および硝酸塩粒子----
- D303 五藤 大輔 (東大大気海洋研) 全球モデルを用いたブラックカーボンの大気変質過程に関する研究
- D304 古谷 浩志 (東大大気海洋研) 都市大気における大気エアロゾルの単一粒子組成と吸湿性の関係
- D305 松井 仁志 (東大先端研) 北京周辺域における新粒子生成のエアロゾル数濃度および雲凝結核濃度への影響
- D306 梶野 瑞王 (気象研) 多重モードとフラクタル凝集形状を考慮した自由分子領域と近連続領域における粒子ダイナミクスモデル (MADMS) の開発
- D307 梶野 瑞王 (気象研) 大気エアロゾルの多様性を考慮しながらダイナミクスを解くモーダル・ビンハイブリッドモデル (MBHM) の開発
- D308 兼保 直樹 (産総研) 東シナ海北部および中部におけるエアロゾルSSAのin-situ測定値の比較
- D309 甲斐 憲次 (名大院環境) 2004年春季のタクラマカン砂漠におけるダスト層の形成 - 崩壊過程の研究
- D310 板橋 秀一 (九大院総理工) 2000-2010年の東アジア域におけるエアロゾル光学的厚さの経年変化
- D311 竹村 俊彦 (九大応力研) 2011年2月上旬の日本における大気汚染について

大会第4日 [5月21日(土)] 9:15~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システムIV

座長 : 出世 ゆかり (防災科研)

- A401 岩井 宏徳 (NICT) ドップラーライダーとウィンドプロファイラにより観測された2010年7月5日の局地的大雨
- A402 李 根玉 (名大地球水循環) Dual-Doppler radar analysis on enhancement mechanism of precipitation system occurred on 6 July 2007 around Mt. Halla, Jeju Island, Korea
- A403 小林 文明 (防大地球) 95GHz雲レーダーとXバンドレーダーを用いた積乱雲発生の同時観測
- A404 金 東順 (防災科研) 2台のXバンドマルチパラメータレーダにより検出された局地的大雨の降水コア –2008年8月5日の雑司が谷豪雨の事例解析–
- A405 出世 ゆかり (防災科研) 2010年7月5日に東京都北部に豪雨をもたらした降水システムの雨滴粒径分布と降水セルの振る舞い
- A406 渡邊 明 (福島大) 2010年12月25日の会津地方の豪雪
- A407 中井 専人 (防災科研雪氷) 降雪粒子特性と降雪強度変動の多点地上観測
- A408 西川 将典 (名大地球水循環) 2台のKa帯レーダを用いた降雨の対向観測
- A409 鷹野 敏明 (千葉大工) 千葉大雲レーダ FALCON-I による積乱雲の高分解能ドップラ観測
- A410 上野 健一 (筑波大院生命環境) 中国南西地域で発生するメソ対流系の地域的特徴
- A411 伊賀 啓太 (東大大気海洋研) Polar Low の発生と発達に対する上層渦の影響について
- A412 栃本 英伍 (九大院理) 渦位で見る梅雨前線帯の低気圧の発達過程

大会第4日 [5月21日(土)] 9:15~11:30 一般口頭発表

B 会場

気象予報

座長 : 吉村 裕正 (気象研)

- B401 吉村 裕正 (気象研) 二重フーリエ級数を使用した非静力全球スペクトル大気モデルの開発
- B402 榎本 剛 (JAMSTEC) 非負フィルタを適用したスペクトル双3次内挿法
- B403 池田 亮作 (筑波大院生命環境) 一般曲線座標系による並列LESモデルの開発
- B404 端野 典平 (東大大気海洋研) 能動型衛星観測を用いた全球雲解像モデルの雲微物理統計量の評価
- B405 上清 直隆 (気象研) 主成分を利用したAIRSデータによる気温・水蒸気プロファイルのリトリバル
- B406 青梨 和正 (気象研) 雲解像モデル用のEnsembleに基づく変分同化法へのSpectral Localizationの導入
- B407 榊谷 道子 (NOAA/NCEP/EMC, JCSDA) Observing System Simulation Experiments
- B408 石橋 俊之 (気象研) 4D-Varにおける評価関数の2次形式を保持した基本場更新の効果
- B409 伊藤 耕介 (京大理) 台風状況下の水蒸気フラックス偏差が短時間で最大風速に影響を与える過程
- B410 山口 宗彦 (気象研) 理想的な台風渦に対する特異ベクトルの性質

大会第4日 [5月21日(土)] 9:15~11:30 一般口頭発表

C 会場

気候システムIII

座長：吉村 純（気象研）

- C401 佐藤 尚毅 (東京学芸大) CMIP3マルチ気候モデルにおける, MJOの冬季東アジアモンスーンへの影響の再現性評価
- C402 鈴木 靖 (京大防災研) CMIP3気候変動情報の活用ー大気海洋間CO₂フラックス評価ー
- C403 野原 大輔 (電中研) 平衡気候感度に対する放射強制力と気候フィードバックのバランス変化
- C404 杉 正人 (JAMSTEC) 高解像度AGCMの228年ランにおける雲とエネルギー収支の変化
- C405 吉村 純 (気象研) 高解像度全球大気モデルの長期積分における熱帯低気圧(2)
- C406 川上 瑠菜 (九大院理) 北半球における独立成分の抽出
- C407 三瓶 岳昭 (会津大CAIST) 環状モードの形成における中緯度海洋SSTフロントの影響
- C408 河本 和明 (長大環境) CloudSatとMODISデータを用いたアマゾンと中国における低層水雲特性の比較
- C409 徐 健青 (JAMSTEC) チベット高原Siling Co湖における熱・水収支
- C410 菅野 洋光 (東北農研センター) 北日本における4月と8月気温の強い相関関係とその時間変動
- C411 松本 教久 (東洋大院生命科学) 環境気象と動物行動の複雑性との関係についてー多変量解析による局所的フラクタル次元解析ー

大会第4日 [5月21日(土)] 9:15~11:30 一般口頭発表

D 会場

放射

座長 : 朽木 勝幸 (気象研)

- D401 関口 美保 (海洋大) ナローバンドモデルRstarへの非球形散乱過程の導入
- D402 岡本 創 (九大応力研) CloudSat-CALIPSOによる氷粒子の後方散乱係数の波長比、偏光解消度と微物理特性の関係について
- D403 MISHRA AMIT KUMAR (GSES, Nagoya University) Vertical distribution of optical and microphysical properties of aerosol over Indo-Gangetic basin (IGB)
- D404 Khatri Pradeep (CEReS) Spectral single scattering albedo over SKNET site retrieved using spectral direct/diffuse measurement
- D405 久慈 誠 (奈良女子大) 視程観測データを用いた中国大陸における気候変動の研究
- D406 朽木 勝幸 (気象研) 全天分光日射計による積雪物理量の推定 - 積雪2層・非球形粒子モデルの導入 -
- D407 青木 輝夫 (気象研) 積雪2層モデルによる積雪物理量の衛星リモートセンシング

大会第4日 [5月21日(土)] 13:30~17:00 専門分科会

A 会場

「柳井迪雄先生追悼特別セッション：熱帯気象学の明日へ向けて」

座長：高薮 緑（東大気海洋研）

- A451 松野 太郎 (JAMSTEC) 熱帯対流気象学の建設
- A452 廣田 勇 (所属なし) 東京大学における柳井迪雄博士のご功績
- A453 山岬 正紀 (JAMSTEC) 柳井迪雄先生追悼特別セッション：熱帯気象学の明日へ向けて
- A454 時岡 達志 (IPCC貢献LP) 柳井先生の講義の思い出
- A455 安成 哲三 (名大地球水循環) ヒマラヤ・アッサム・バングラデシュ多雨帯におけるモンスーン準2週間周期変動—時空間特性とその機構—
- A456 植田 宏昭 (筑波大生命環境) アジアモンスーンの成立と変動における熱帯の役割
- A457 尾瀬 智昭 (気象研) 気象研・革新モデルの積雲対流とアジアモンスーン

座長：佐藤 正樹（東大気海洋研）

- A458 杉 正人 (JAMSTEC) なぜ地球温暖化により全球の熱帯低気圧の数が減るのか
- A459 大内 和良 (JAMSTEC) 高解像度全球大気モデルにおける熱帯低気圧と季節内変動—Athenaプロジェクト・北半球夏季実験—
- A460 沢田 雅洋 (東北大院理) 台風に伴う雲・降水日変動の要因と放射の役割
- A461 増永 浩彦 (名大地球水循環) 熱帯湿潤対流に対する大規模強制力および大気応答に関する衛星観測研究
- A462 安永 数明 (RIGC/JAMSTEC) 熱帯波動擾乱における降水特性の違い
- A463 米山 邦夫 (JAMSTEC) MJOを巡る観測研究：MISMOからCINDY2011へ

大会第4日 [5月21日(土)] 13:30~17:00 専門分科会

C 会場

「ひまわり8号, 9号」が拓く新しい気象学」

趣旨説明

座長 : 増田 一彦 (気象研)

C451 太原 芳彦 (気象庁気象衛星) 静止地球環境観測衛星「ひまわり8号・9号」

新センサーの活用

座長 : 中島 孝 (東海大学情報技術センター)

C452 奥山 新 (衛星センター) 次期静止衛星搭載イメージャのシミュレーションデータの開発

C453 中島 孝 (東海大TRIC) 第3世代「ひまわり」による雲特性観測計画

C454 竹中 栄晶 (千葉大CEReS) 第3世代「ひまわり」による放射収支の推定

ラピッド・スキャン観測

座長 : 大野 智生 (気象庁気象衛星センター)

C455 下地 和希 (衛星センター) 次期静止気象衛星ひまわり観測データの活用戦略

C456 岡部 いづみ (衛星センター) 積雲急発達域検出プロダクトの開発について

休憩

数値モデルへの同化

座長 : 岡本 幸三 (気象研)

C457 岡本 幸三 (気象研) 全球数値予報における次期静止気象衛星の同化

C458 山下 浩史 (気象庁数値予報) 静止気象衛星「ひまわり」から算出される衛星風のデータ同化

総合討論

座長 : 増田 一彦 (気象研)

※各講演の持ち時間は質疑を含めて15分です。

大会第4日 [5月21日(土)] 13:30~17:00 専門分科会

D 会場

「AR5に向けた気候変化予測の現状」

趣旨説明

木本 昌秀 (東大大気海洋研)

気候システムモデリング

座長 : 渡部 雅浩 (東大大気海洋研)

- D451 横畠 徳太 (環境研) 全球気候モデルMIROC5による現在気候の再現と将来予測
- D452 塩竈 秀夫 (環境研) 気候感度の物理パラメータ不確実性
- D453 廣田 渚郎(東大大気海洋研) 熱帯海上における降水特性による降水・循環の将来変化パターンのマルチモデル間の違い

近未来予測・極端現象予測

座長 : 石井 正好 (気象研究所)

- D454 近本 喜光 (東大大気海洋研) MIROCを用いた近未来予測システムの開発
- D455 森 正人 (東大大気海洋研) 高解像度大気海洋結合モデルによる近未来気候変動予測実験
- D456 鬼頭 昭雄 (気象研) 気象研究所全球20km・60km格子大気大循環モデルによる将来の極端現象変化予測
- D457 金田 幸恵 (JAMSTECつくば勤務) 革新プログラム・チーム3「極端現象」: 領域温暖化予測実験 水平解像度5km非静力学モデルによる梅雨期の降水現象の将来変化

休憩

地球システムモデリング

座長 : 河宮 未知生 (JAMSTEC)

- D458 行本 誠史 (気象研) 気象研究所地球システムモデル (MRI-ESM1) の気候再現性と気候感度
- D459 渡辺 真吾 (JAMSTEC) 地球システムモデルMIROC-ESM-CHEMによるアジア域の有害紫外線シミュレーション
- D460 羽島 知洋 (JAMSTEC) 地球システム統合モデルMIROC-ESMにおけるRCPsシナリオ下での陸域炭素循環・土地利用変化の影響解析
- D461 須藤 健悟 (名大院環境) 化学・エアロゾル気候モデルを用いた短寿命気候影響物質の放射強制力の評価
- D462 伊藤 彰記 (JAMSTEC) 東シベリア森林火災起源の溶存鉄の西北太平洋への供給に関するエアロゾルモデル解析

総合討論

司会 : 鬼頭 昭雄 (気象研)

※各講演の持ち時間は質疑を含めて15分です。

大会第1日 [5月18日(水)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P101 前田 芳恵 (東大IR3S) 温暖化リスクメディアフォーラム
- P102 横内 絢子 (気象協会) 地域防災力向上におけるソーシャルメディアの役割 ~ Twitterを活用した災害情報チャンネルの開拓の試み ~
- P103 金久 博忠 (気象大) 加熱に対する大気の共鳴応答の解析解
- P104 小田 真祐子 (富山地方気象台) Rossby波と重力波の相互作用の解析解
- P105 安藤 紘基 (東大理) 金星大気における内部重力波の鉛直波数スペクトル
- P106 太田 真衣 (東大大気海洋研) 冬季アジアモンスーンと北太平洋のストームトラック活動との関係
- P107 山上 晃央 (筑波大院生命環境) ロスビー波の増幅と砕波による大気大循環のエネルギースペクトルの検証
- P108 平松 章男 (北陸先端大知識) 確率予報を利用した意思決定のモデルについて
- P109 山下 和良 (放送大学) 都市型集中豪雨の予測に向けた事例解析
- P110 黒田 徹 (JAMSTEC) インクリメント法LETKF を用いた実験システムの構築 (第2報)
- P111 田中 基裕 (広島地方気象台) 2010年7月16日に広島県庄原市で大雨をもたらした降水系のメカニズムについて
- P112 下山 紀夫 (気象協会) T0918の外側降雨帯に発生した局地前線と積乱雲群の解析
- P113 下瀬 健一 (気象研) 冬季に庄内平野で突風をもたらした降水システムの形態分類
- P114 水成 真由美 (筑波大) 東京都で発生する夏季の短時間強雨の気候学的研究
- P115 アリ マルヤディ (防衛大地球海洋) Artificial Seeding Simulation Using Dry Ice in Kupang, Indonesia
- P116 斎藤 篤思 (気象研) 航空機搭載用氷晶核測定装置による観測 (その2)
- P117 越田 智喜 (いであ) XバンドMP レーダによる融解層の観測
- P118 小林 隆久 (気象研) 雲・降水レーダーシミュレーターの開発: 3-雨滴生成モデル
- P119 佐藤 陽祐 (東大大気海洋研) 衛星観測および飛行機データを用いたJMANHM-HUCMのValidation
- P120 小池 克征 (いであ) 山岳性降雪雲を対象とした地上気象観測とJMANHM_1kmデータとの統計的なValidation
- P121 藤吉 康志 (北大低温研) ドップラーレーダを用いた海水移動ベクトルの作成、渦状擾乱と突風域の検出
- P122 上村 清二 (防衛大地球海洋) 気象データと浅海での海水温度構造から見た音波伝搬特性
- P123 松浦 由希 (防衛大地球海洋) 静止気象衛星赤外差分画像を用いた黄砂の動向解析
- P124 川村 誠治 (NICT) 沖縄偏波降雨レーダCOBRAを用いた改良型バイスタティック観測システムの実証実験
- P125 占部 享史 (RISH) 赤道大気レーダーによる熱帯対流圏のレンジイメージング観測 -CLEAR2010における観測結果-
- P126 平松 佑脩 (首都大都市環境) ヴァリオグラムを用いたレーダー・アメダス解析雨量の空間的連続性に関する研究
- P127 能登 美之 (高層気象台) 高層気象観測測器の更新に伴う影響の評価
- P128 堀口 光章 (京大防災研) 中立に近い大気境界層における組織的乱流構造-気象観測鉄塔(つくば)によるデータの解析-

大会第1日 [5月18日(水)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P129 小田 僚子 (NICT) 東京都市域における夜間の鉛直流擾乱
- P130 瀧本 浩史 (東工大院理工) 境界層中に発達する乱流構造の地表面幾何依存性
- P131 日下 博幸 (筑波大学計算科学) つくば市における2010年冬季・夏季の気温分布の実態
- P132 石 蕊 (東工大院理工) ラグランジュアン観測に基づく冬季の都市街区温熱環境調査
- P133 岡田 牧 (筑波大院生命環境) 夏季日中における小規模緑地が近隣街区の気温に与える影響
- P134 森口 匡俊 (防大地球) 霧の解消過程における視程変動の特徴
- P135 稲村 友彦 (首都大都市環境) 局地風「羅白だし」吹走時における大気の鉛直構造の特徴
- P136 八坂 陽範 (防衛大地球海洋) ヤマセに伴って発生した細胞状雲の構造
- P137 栗林 正俊 (筑波大院生命環境) 南西諸島におけるミー散乱ライダーを用いた海上混合層の鉛直構造の推定
- P138 佐藤 和敏 (弘前大理工) 近年の北極海における雲鉛直構造の変化

大会第2日 [5月19日(木)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P201 伊藤 享洋 (気象大) Eyewallに惹起された渦Rossby波の解析解
- P202 菅田 誠治 (環境研) 南北両半球における冬期成層圏極渦の孤立性の年々変動
- P203 武樋 藤子 (東北大理) 帯状平均場からみた北半球中高緯度における短期的な寒気放出
- P204 永田 玲奈 (お茶大) 2010年夏における北太平洋高気圧の動向と循環場の特徴
- P205 田中 実 (所属なし) 中部太平洋に梅雨期と秋雨期に出現するP-Jパターンと似たMid-Pacific(M-P)パターン
- P206 山崎 哲 (九大院理) 渦と渦の相互作用によるブロッキング持続メカニズムー2010年7・8月事例への適用ー
- P207 篠沢 佳久 (慶大理工) 異なる地点間の予報精度の評価手法の提案
- P208 坂本 雅巳 (気象庁数値予報) 大規模並列計算のための全球格子モデルの開発
- P209 鵜沼 昂 (高知大院理) 2008年5月13日に発生した四国における線状降水帯の数値実験
- P210 尾上 万里子 (名大地球水循環) 平成22年7月15日に可児・八百津周辺で発生した豪雨の解析(1)ーXバンド偏波レーダを用いた降水システムの構造解析ー
- P211 加藤 雅也 (名大地球水循環) 平成22年7月15日に可児・八百津周辺で発生した豪雨の解析(2)ー雲解像モデルと雷シミュレーションの結果ー
- P212 仲野 久美子 (東工大院理工) 都市の地表面形状及び土地被覆の違いが及ぼす局所的集中豪雨への影響
- P213 吉田 翔 (筑波大院生命環境) メソγスケール対流系の雨量と高度1kmの風の収束の関係
- P214 折笠 成宏 (気象研) ドライアイスシーディングに伴う山岳性降雪雲の微物理構造の変化(その5)
- P215 鈴木 賢士 (山口大農) 初冬の寒気流入に伴う降雪雲のビデオゾンデ連続観測
- P216 越田 智喜 (いであ) 渇水被害軽減のため、山地部に出現する降水の出現状況の調査
- P217 篠田 太郎 (名大地球水循環) 衛星より観測される赤外・マイクロ波輝度温度を用いた雲解像モデルの結果の検討(その2)
- P218 大竹 秀明 (気象研) 夏季の高知上空における航空機観測と雲解像モデルとの統計的なvalidation
- P219 稲飯 洋一 (名大院環境) 西太平洋熱帯対流圏界層における水蒸気と巻雲
- P220 長田 和雄 (名大院環境) テストダスト粒子に含まれる水溶性物質の体積割合
- P221 杉谷 茂夫 (NICT) 沖縄本島西岸域における層気楼連続観測
- P222 古澤 文江 (名大地球水循環) 地表面射出率の降水推定への応用と地表面温度導出について2
- P223 胡斯 勒因 (TRIC) GCOM-C/SGLIの氷雲粒子散乱データベースの作成について
- P224 酒巻 洋 (三菱電機) 可搬型偏光ライダーの開発
- P225 高橋 暢宏 (NICT) CloudSatのレベル1とレベル2データの比較
- P226 瓜田 真司 (首都大院) 解析雨量の年々変動に関する研究-5km格子への変換方法に着目して-
- P227 栗田 進 (気象研) 粗度・ゼロ面変位の安定度依存性に関する“Zilitinkevich et al. (2008)の式”の検証(弱安定時)と一般化(キャノピー依存性)
- P228 野口 淡海 (東工大院理) 久が原タワーを用いた大気乱流のスペクトル解析
- P229 稲垣 厚至 (東工大) 低周波変動する流量下での都市接地境界層の数値解析
- P230 阿部 紫織 (筑波大) 多治見市における夏季の気温分布の実態調査(その1)

大会第2日 [5月19日(木)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P231 池守 春奈 (筑波大院生命環境) 筑波大学学内におけるヒートアイランド観測
- P232 小笠原 拓也 (気象協会) 細粒度センサネットワークで捉えられた館林市の温熱環境の統計的特性
- P233 伊藤 優 (埼玉大院理工) 関東地方の猛暑に関わるヒートアイランドの構造解析
- P234 桐山 悠祐 (東理大) 夏季関東内陸部における混合層の発達とオゾンの鉛直分布の関係
- P235 片境 泰聡 (首都大都市環境) 局地風シミュレーションの気温上昇メカニズムに関する研究
- P236 川合 秀明 (気象研) 海洋性境界層雲の層積雲から浅い対流への遷移
- P237 藤井 貫志 (防衛大地球海洋) 衛星データを用いた下層雲の雲底高度推定と航空機観測との比較検討
- P238 庭野 匡思 (気象研) 積雪不純物が雪面熱収支に与える影響の評価

大会第3日 [5月20日(金)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P301 杉山 聡 (NTT環境研) 全球気候モデル計算結果を用いた雷の傾向の分析
- P302 上野 正博 (筑波大院生命環境) 関東地方における過去30年間の気候変化シミュレーション
- P303 石崎 安洋 (環境研) パターンスケーリングの排出シナリオ依存性
- P304 石崎 紀子 (気象研) 20km格子マルチRCMによる温暖化時の日本の地域気候変動
- P305 中野 満寿男 (JAMSTEC) 高解像度大気モデルで予測された日本付近の熱波の将来変化
- P306 筒井 純一 (電中研) オンライン版簡易気候モデルSEEPLUS
- P307 奥 勇一郎 (京大防災研) 全球大気モデル温暖化予測実験による土砂災害関連指標降水量の将来変化
- P308 美山 透 (RIGC) 東シナ海の黒潮沿いにあらわれた降水帯
- P309 石原 幸司 (気象研) 新しい陸上気温データセットの作成
- P310 久慈 誠 (奈良女子大) 北極Ny-Ålesundにおける雲量の季節変化
- P311 丸山 文男 (名大院環境) レジーム・シフトと大気と海洋の時系列のフラクタル性の変化の関係
- P312 河合 理也 (富山大院理工) 対流圏中層の水平温度移流を指標とした梅雨の季節進行と経年変動
- P313 田畑 弾 (日大文理) KBS気圧データを用いた気圧急変動現象解析
- P314 大谷 和男 (岡山大教育) 九州付近における梅雨降水活動の2000年代以降の変化 (続報)
- P315 関 隆則 (気象予報士会) 東京の無降水継続日数の順位分布とその特徴
- P316 田上 善夫 (富山大人間発達科学) 東アジアにおける局地循環系の出現と変化
- P317 平岡 愛 (富山大院理工) 富山及び石垣島における梅雨期の降水起源解析
- P318 重里 昌 (東京海上研) 台風の気候変動に伴う変化 -各気象要素についての感度実験-
- P319 勝俣 昌己 (JAMSTEC) 季節内変動に伴う熱水収支変動: インド洋・西太平洋での近年の特別観測から
- P320 寺尾 建哉 (北大院環境科学) 東部熱帯太平洋における下層雲変動の力学的要因
- P321 金丸 佳矢 (名大院環境) Aqua AMSR-E/AIRS を利用した熱帯域の地表面水蒸気量の推定
- P322 マハビク ナッタボン (京大院理) Precipitation characteristics in Thailand using weather radars and surface meteorological observations
- P323 Rochelle Coronel (東北大) Simulated Intensity of Tropical Cyclone Megi (2010): Impacts of Horizontal Resolution, Evaporative Cooling and PBL Schemes
- P324 益子 渉 (気象研) 気象庁非静力学モデルによる台風の再現性の統計的検証
- P325 大井川 正憲 (京都大・理) ITCZ域でみられた大規模な東西雲帯の南北分割
- P326 関谷 高志 (名大院環境) 全球対流圏オゾン経年変動の回転EOF解析: ENSOおよびAOのインパクト
- P327 田中 泰宙 (気象研) 全球エアロゾルモデルによる黄砂予測シミュレーションの精緻化
- P328 矢吹 正教 (京大生存研) 信楽における下部対流圏エアロゾル・微量気体成分の観測
- P329 内山 明博 (気象研) つくばでの地上観測によるエアロゾル光学特性の変動
- P330 財前 祐二 (気象研) エアロゾル粒子の加熱による形態変化
- P331 遠藤 寛也 (名大院環境) 南極昭和基地への黒色炭素の長距離輸送と起源の推定

大会第3日 [5月20日(金)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P332 板野 稔久 (防衛大地球海洋) MTSAT-2 のSplit-Window 及び近赤外画像でみた新燃岳噴煙の動態
- P333 茂木 信宏 (東大先端研) 微粒子から放出される熱輻射光の偏光・方位依存性の検証実験
- P334 工藤 玲 (気象研) 日本のエアロゾル光学特性の長期変動と地上日射への影響
- P335 萩野谷 成徳 (気象研) チベット高原ナム湖における放射観測
- P336 真野 裕三 (気象研) Nonstandard FDTD による電磁波散乱問題の計算
- P337 朝倉 利員 (果樹研) ソメイヨシノ開花予測のための一般化モデルとパラメータの最適化法
- P338 高野 哲夫 (SnowCast/気象予報士会) 新潟県内における冬の季節風と陸風によるシアライン発生の数値実験

大会第4日 [5月21日(土)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P401 大島 一洋 (筑波大院生命環境) 20km-AGCMにおける冬季日本周辺域の低気圧活動の再現性および将来変化
- P402 大島 和裕 (北大地球環境) CMIP3マルチ気候モデルにおける冬季北太平洋の海面気圧トレンドにみられる地域差とその不確実性
- P403 坂井 大作 (JAMSTEC) 8月の日本における極端気温と気圧配置の関係
- P404 花房 瑞樹 (気象研) 高解像度日本域気候モデルによる日本の地上風の再現性と将来気候における変化
- P405 菅野 洋光 (東北農研センター) ザンビアにおける降水量観測と数値シミュレーション
- P406 坂口 晃一 (アリゾナ大大気) Temporal and Spatial Scale Dependence of IPCC AR4 Climate Models in Simulating the Surface Temperature Trend
- P407 仲江川 敏之 (気象研) 全球1km土地被覆データセットの選択による大気モデル土地被覆の不確実性
- P408 鈴木 香寿恵 (極地研) 南極氷床への対流圏大気の輸送メカニズム
- P409 小池 百合子 (筑波大院生命環境) バックトラジェクトリー解析を用いたモンゴル旱魃発生要因の推定
- P410 朱 心悦 (東北大院理) Long-term climatic characteristics over China by two reanalysis data
- P411 岡山 仁 (名大院環境) 東アジアにおける春の雨季の季節進行
- P412 宮島 純也 (筑波大院生命環境) 時間スケール別にみた日本の極端降水の気候学的研究
- P413 小口 哲史 (筑波大院生命環境) 日本における降水の長期変動の季節特性と地域特性
- P414 平田 航 (筑波大院生命環境) 二つ玉低気圧通過に伴う降雨・降水の気候学的研究
- P415 田上 雅浩 (熊大院自然) 降水安定同位体比を用いた熊本における降水起源の季節変化
- P416 古林 慎哉 (気象庁気候情報) 第2次長期再解析JRA-55の本計算開始と初期評価結果
- P417 林 未知也 (九大理) 熱帯での風と積乱雲の相互作用における $\cos\phi$ コリオリ項の重要性について
- P418 松本 淳 (JAMSTEC) ベトナム・フィリピン豪雨集中観測2010(VPREX2010)
- P419 吉崎 正憲 (JAMSTEC) Convectively-coupled equatorial waves (CCEWs)の問題点
- P420 本間 有慈 (北大院環境科学) 熱帯の季節内振動に伴う東アジア域の降水変動の解析
- P421 吉村 淳 (東大大気海洋研) 西太平洋に発生したtwin cyclonesの統計解析
- P422 横井 覚 (東大大気海洋研) 「発生地別台風統計法」を用いた台風存在頻度の将来変化予測の要因解析
- P423 和田 章義 (気象研) 北太平洋海域におけるArgoデータを用いた台風最大強度と海洋貯熱量の関係の検証
- P424 徳野 正己 (気象研) 水蒸気チャンネルによる台風の強度推定
- P425 井上 忠雄 (名大院環境) 中国東部中央域における対流圏カラムNO₂の週内変動
- P426 眞木 貴史 (気象研) 逆解析を用いた黄砂放出量解析手法の開発
- P427 速水 洋 (電中研) 初冬季のつくば市における粒子状物質の鉛直分布
- P428 直江 寛明 (気象研) 冬季新穂高で採集されたエアロゾル粒子の混合状態
- P429 大畑 祥 (東大先端研) 東京と沖縄における雨水中のブラックカーボン濃度の測定
- P430 上田 紗也子 (名大院環境) 南インド洋・南極海洋上で観測されたスス粒子

大会第4日 [5月21日(土)] **11:30~12:30** **ポスター・セッション**

- P431 宮脇 力 (京大生存研) 小型水蒸気ラマンライダーを用いた信楽上空の 대기計測
- P432 深堀 正志 (気象大) エーロゾルの粒径分布とオングストローム指数の関係
- P433 松本 暢明 (気象大) 千葉県柏市におけるエーロゾルの光学特性および粒径分布の季節変化
- P434 竹中 栄晶 (千葉大CEReS) SKYNET および BSRN 日射計観測データを用いた衛星推定全天日射量の地上検証
- P435 萩野谷 成徳 (気象研) チベット高原上の湖の衛星データ解析
- P436 児嶋 恵 (三菱総研) 気候変動に伴う観光快適度の変化について
- P437 高橋 庸哉 (北教大) 小学校児童用ワークシート「冬の天気」の開発と授業実践
- P438 岩崎 杉紀 (防衛大地球海洋) オーバーシュートと下部成層圏の空気の混合